

まちづくり交付金 事後評価シート  
誉田駅周辺地区

平成21年12月

千葉県千葉市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名	千葉市		地区名	誉田駅周辺地区			面積	29.6ha			
交付期間	平成17年度～21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	6,710百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(誉田町215号線、誉田駅北口線、北口交通広場、北口自転車駐車場、誉田町801号線、誉田町104号線、誉田町162号線、千葉大網線(南口駅前広場)、公園(誉田駅北口交通広場公園、誉田2丁目公園)、高質空間形成施設(北口交通広場内)、高次都市施設(南北自由通路)										
			提案事業	地域創造支援事業(JR誉田駅橋上化事業、進入路整備(誉田東小学校脇進入路拡幅)、道路事業(誉田町215号線)、公園事業(誉田2丁目公園)、まちづくり活動推進事業(まちづくり協議会運営、事業効果検討、誉田町162号線一方通行等社会実験)										
	当初計画から削除した事業		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			基幹事業	なし										
			提案事業	地域創造支援事業(道路事業(誉田町215号線))			市単独費に移行のため			影響なし				
			提案事業	地域創造支援事業(公園事業(誉田2丁目公園))			市単独費に移行のため			影響なし				
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(誉田町217号線)			地区内幹線道路の連携強化のため追加			影響なし				
			提案事業	まちづくり活動推進事業(誉田町162号線一方通行等シミュレーション)			一方通行化等の社会実験が交通管理者の了解が得られず、代替事業として追加			影響なし				
	交付期間の変更		当初	平成17年度～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
			変更	平成 年度～ 年度										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	指標1	駅からの徒歩5分圏域	ha	4.5	H16	19.7	H21	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標2	幹線道路の安全すれ違い率	%	14.1	H16	54.6	H21	—	43.9	△	あり なし ●	指標は達成しないものの、駅北側からの南口への迂回の回避、地域内移動における迂回が軽減された。		
	指標3	抜け道利用車両の排除	台/時	158	H12	0	H21	—	8	△	あり なし ●	事業の進捗が遅れ、地域全体としての道路網を整備するまでに至らなかったことが未達成の直接の要因である。		
	指標4	南北連携効果時間	分	11	H16	2	H21	2	2	○	あり なし	誉田町215号線の一部供用開始に伴い、地区内の交通環境が向上することにより、抜け道利用車両を排除することが出来た。		
	指標5	身近な憩い空間の確保	人	880	H16	1,180	H21	—	1,180	○	あり なし	鉄道による地域の分断が解消され、地区内移動における速達性の向上により、目標の達成に寄与している。	平成22年6月頃	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	その他の数値指標1	誉田駅への行きやすさ及び南口・北口の往來のしやすさ	%	—	—	/	/	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標2	幹線道路の利用のしやすさ及び安全性	%	—	—	/	/	—	61.5	/	/	北口駅前広場及び幹線道路の一部区間を整備したことにより、利便性が向上した。		
	その他の数値指標3					/	/	—		/	/	幹線道路の歩車道を分離したことにより、安全性が向上した。		
4) 定性的な効果発現状況	・道路事業により地域の骨格道路が整備されつつあり、地域の防災性の向上に寄与している。													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	交付期間中(中間期)におけるモニタリングの実施		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● モニタリングは事業の執行状況を把握する上で有効であるため、計測しやすい指標を設定し、実施時期を見極めて実施したい。						
	住民参加プロセス	まちづくりニュースの発行		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 事業に対して地区の住民が理解を得るとともに、まちづくりへの関心を高められるように掲載内容を工夫していきたい。						
	持続的なまちづくり体制の構築		誉田駅周辺まちづくり協議会の運営				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 解決すべき課題に対して、話し合いに多くの時間を要する場合には、会の開催回数を増やす等、参加者の反応に応じ柔軟に運営していきたい。			



## 様式2-2 地区の概要

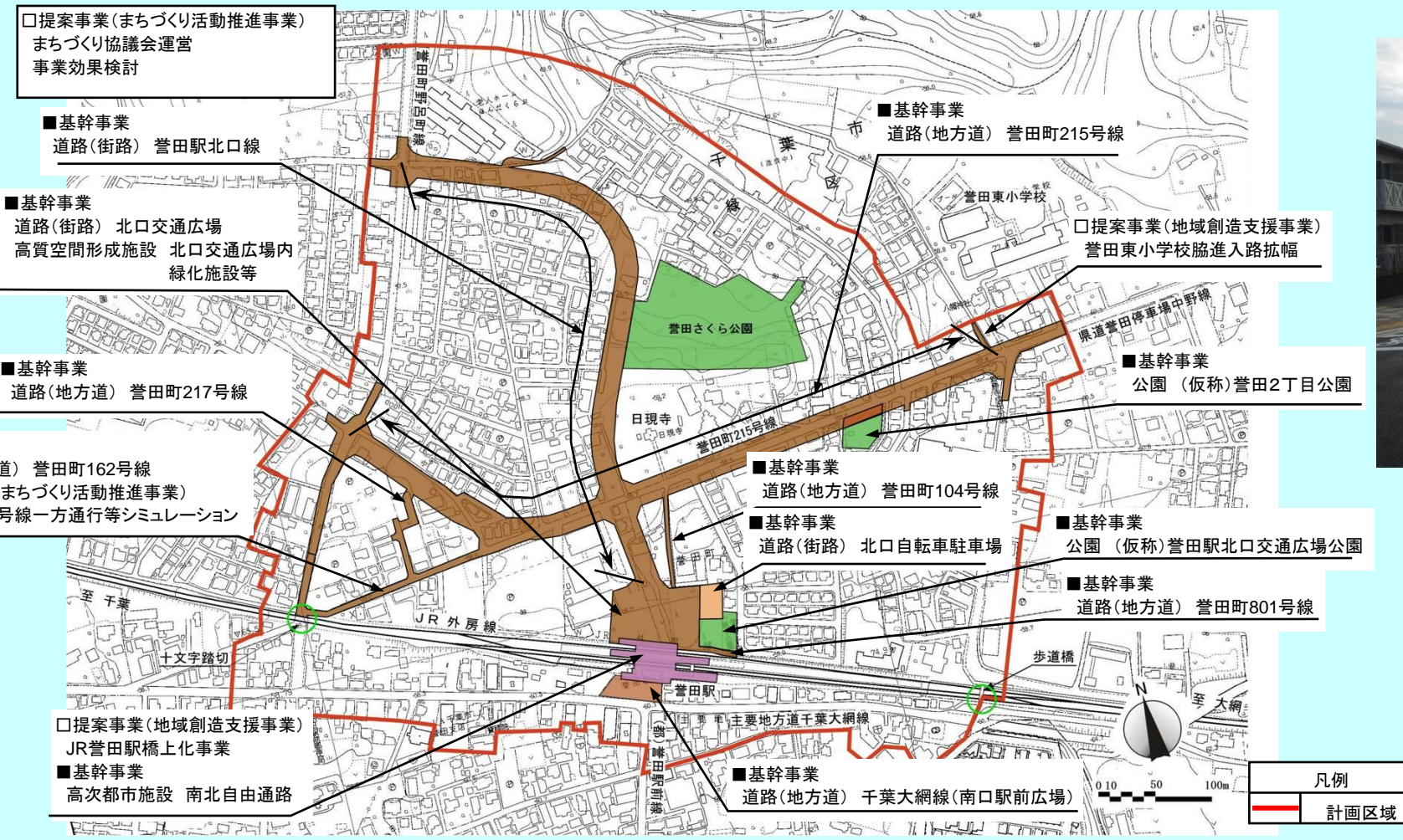
### 菅田駅周辺地区(千葉県千葉市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	実績値	評価
大目標：菅田駅の橋上化・南北自由通路整備を核とした交通結節点の強化及び地域の生活環境や利便性向上 目標1：交通結節機能及び南北地域間の連絡強化 目標2：地区内の円滑な交通処理と安全な居住環境の確保 目標3：花と緑を楽しめる憩い空間の確保	駅からの徒歩5分圏域	単位:ha	4.5	H16	19.7	H21	17.8	H21
	幹線道路の安全すれ違い率	単位:%	14.1	H16	54.6	H21	43.9	H21
	抜け道利用車両の排除	単位:台/時	158	H12	0	H21	8	H21
	南北連携効果時間	単位:分	11	H16	2	H21	2	H21
	身近な憩い空間の確保	単位:人	880	H16	1,180	H21	1,180	H21

#### ● JR菅田駅教条駅舎・南北自由通路



#### ● 北口駅前広場



#### ● 菅田町215号線



#### ● 北口交通広場公園



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR菅田駅の橋上化・駅北口交通広場・北口自転車駐車場の整備により、交通結節機能が強化されるとともに、鉄道により南北に分断されていた地域の連携が図られるようになった。</li> <li>・市道菅田町215号線の整備により、十字路踏切付近の交通渋滞や狭隘道路への通過交通の進入が改善された。</li> <li>・菅田駅北口交通広場公園や菅田2丁目公園等の公園整備により、身近な憩い空間が確保され、居住環境の向上が図られた。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○南北間の交流の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・JR菅田駅橋上化事業、南北自由通路、北口公園広場、道路事業の一部の完了により、距離的な南北間の連携は強化されたので、今後は施設利用等の地域交流が問題。</li> </ul> </li> <li>○道路事業の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業で位置づけられている道路事業の一部が交付期間内に終了していないことから、引続き、道路事業を推進し、南北間の連携強化及び地区内の交通環境の向上を図る。</li> <li>・北口駅前広場へバスの乗り入れをさせ、南口駅前広場の混雑を軽減させる。</li> </ul> </li> <li>○住民参加のまちづくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに整備された公園を有効活用して地域のコミュニティ形成を向上させるため、住民活動の促進による住民参加のまちづくりの実施を図る。</li> </ul> </li> <li>○良好な居住環境の誘導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに造られた憩い空間と既存の緑の空間を有効活用し、良好な居住空間を形成する。</li> </ul> </li> </ul>



# まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取 —

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	誉田町215号線	3,248	L=685m	2,577	L=685m	事業費精査による減少	影響なし		
	誉田駅北口線	2,820	L=525m	1,769	L=525m	事業計画の見直しによる事業費の減少	影響なし		
	北口交通広場	281	A=4,080㎡	262	A=4,080㎡	コスト削減による事業費削減	影響なし	●	
	北口自転車駐車場	75	A=680㎡	66	A=680㎡	コスト削減による事業費削減	影響なし	●	
	誉田町801号線	12	L=37m	4	L=37m	事業費精査による減少	影響なし	●	
	誉田町104号線	11	L=110m	31	L=110m	事業費精査による増加	影響なし		
	誉田町162号線	24	L=150m	21	L=150m	事業費精査による減少	影響なし		
	誉田町217号線	—	—	43	L=91m	地区内幹線道路の連携強化のため、平成17年に計画変更して追加	影響なし	●	
	千葉大網線(南口駅前広場)	64	A=1,100㎡	60	A=1,100㎡	コスト削減による事業費削減	影響なし	●	
公園	(仮称)誉田駅北口交通広場公園	59	A=995㎡	49	A=1,000㎡	コスト削減による事業費削減	影響なし	●	
	(仮称)誉田2丁目公園	115	A=850㎡	97	A=850㎡	事業費精査による減少	影響なし		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設	北口交通広場内	69	—	37	—	コスト削減による事業費削減	影響なし		
高次都市施設	南北自由通路	694	—	636	—	事業費精査による減少	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	駅からの徒歩5分圏域	ha	-	-	4.5	H16	19.7	H21	モニタリング	H19	-	モニタリング	-		●
									事後評価	確定見込み	●	17.8	事後評価		
指標2	幹線道路の安全すれ違い率	%	-	-	14.1	H16	54.6	H21	モニタリング	H19	-	モニタリング	-		●
									事後評価	確定見込み	●	43.9	事後評価		
指標3	抜け道利用車両の排除	台/時	-	-	158	H12	0	H21	モニタリング	H19	-	モニタリング	-		●
									事後評価	確定見込み	●	8	事後評価		
指標4	南北連携効果時間	分	-	-	11	H16	2	H21	モニタリング	H19	2	モニタリング	○		
									事後評価	確定見込み	●	2	事後評価		
指標5	身近な憩い空間の確保	人	-	-	880	H16	1,180	H21	モニタリング	H19	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定見込み	●	1,180	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	JR誉田駅の橋上化、南北自由通路の整備、道路事業の一部完了により、成果を上げることができたが、誉田駅北口線が供用開始されないため数値目標の達成には至らない。	
指標2	地区内の一部の区間においては道路整備が概ね完了したこと及び誉田町215号線の暫定歩道整備により、従前に比べ歩道が整備され、安全性は向上したものの、誉田駅北口線の整備が遅れており、目標年度までに数値目標の達成には至らない。	
指標3	地区内の一部区間において道路整備が概ね完了したことにより、従前と比べて地区内への抜け道利用車両が減少した。計測の結果得られた8台/時は、抜け道利用車両か経路上に用務がある車両であるか判断できないことなどや、従前から比較して著しく減少していることを踏まえると、課題は大きく改善されていると考えられる。	
指標4	JR誉田駅の橋上化、南北自由通路の整備により、成果を上げることができた。	
指標5	公園事業及びJR誉田駅の橋上化、南北自由通路の整備に伴う鉄道南北の分断が解消されたことにより、成果を上げることができた。	(仮称)誉田2丁目公園は、現時点では事業は完了していないが、既に事業を開始し、1年以内に完了するめどが立っていることから、誉田2丁目公園の誘致圏域も加味して評価値を算出している。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準 年度		基準 年度							
その他の数値指標1	菅田駅への行きやすさ及び南北の往来のしやすさ	%	居住環境アンケート	—	—	—	—	モニタリング	—	—	菅田駅への行きやすさ及び往来のしやすさの満足度を計測し、交通結節点及び南北間の連携強化を表す指標として設定。	参考(最終集計後の値69.9%)
								事後評価	確定見込み	●		
その他の数値指標2	幹線道路の利用しやすさ及び安全性	%	居住環境アンケート	—	—	—	—	モニタリング	—	—	幹線道路の一部を供用したことによる満足度を計測し、歩行者の安全性を表す指標として設定。	参考(最終集計後の値75.7%)
								事後評価	確定見込み	●		
その他の数値指標3								モニタリング	—	—		
								事後評価	確定見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・道路事業により地域の骨格道路が整備されつつあり、地域の防災性の向上に寄与している。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
交付期間中(中間期)におけるモニタリングの実施	予定どおり実施した	【実施頻度】1回/5年、計1回 【実施時期】平成19年6月～9月 【実施結果】事業途中の進捗状況の確認を行った。	・モニタリングは、事業状況を把握する上で有効であるため、実施時期を見極めて実施したい。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった(理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくりニュースの発行	予定どおり実施した ●	【実施頻度】まちづくりニュース 1～2回程度/1年、計5回 【実施時期】平成17年6月～平成22年3月 【実施結果】JR菅田駅橋上化及びそれに関連した駅周辺のまちづくりに対して、事業及びまちづくり等のPR等を行ったことにより、住民の理解を得ることができた。	・事業に対して地区の住民が理解を得るとともに、まちづくりへの関心を高められるように掲載内容を工夫していきたい。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった(理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
住民参加によるまちづくり活動組織の構築	予定どおり実施した ●	・菅田駅周辺まちづくり協議会を開催し、まちづくりに関する取り組みについて、住民との話し合いの中で方針決定してきたことで、官民協働で事業に取り組む体制が構築された。	・菅田駅周辺まちづくり協議会 JR菅田駅橋上化に伴う駅周辺のまちづくり事業について協議する会	・解決すべき議題に対して、話し合いに多くの時間を要する場合には、会の開催回数を増やす等、参加者の反応に応じて柔軟に運営していきたい。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった(理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(誉田駅周辺地区事後評価検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定街路課 主査、主任技師、主任技師</li> <li>・道路計画課 主査 主任技師 技師</li> <li>・公園建設課 主任技師 主任技師</li> <li>・まちづくり推進課 主任技師 主任主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回:8月14日</li> <li>・第2回:8月28日</li> </ul>	特定街路課 誉田駅前整備室 (誉田駅周辺地区代表課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標4		指標5		その他の指標1		その他の指標2	
指標名		南北連携効果時間		身近な憩い空間の確保		誉田駅への行きやすさ及び南北の往来のしやすさ		幹線道路の利用のしやすさ及び安全性	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路・誉田町215号線(一部供用)	—	JR誉田駅橋上化事業・南北自由通路の整備により、鉄道による地域の分断が解消され、北口交差点から南口駅前広場まで直接移動可能となったことで区内移動の速達性が向上した。また、駅前広場を整備したことにより、一部のバス路線が北口に乗り入れをしたことで、南口駅前広場の混雑を軽減している。	○	公園事業、駅前交通広場の整備により、地域内に新たな公園、待合場所が確保され、住民にとって身近に利用できる憩い空間を確保することができた。	◎	南北駅前広場及び道路事業の整備により、誉田駅へのアクセスが良くなった。さらに、JR誉田駅橋上化・南北自由通路の整備で交通結節点としての機能も向上したことが要因である。	◎	北口駅前広場及び誉田町215号線の一部を供用開始したこと。また、暫定歩道整備を行ったことにより、歩車分離が図れ、利便性及び安全性が向上した。
	道路・誉田駅北口線(一部供用)	◎		○		○			
	道路・北口交通広場(完成)	◎		○		○			
	道路・北口自転車駐車場(完成)	—		—		—			
	道路・誉田町801号線(完成)	—		○		○			
	道路・誉田町104号線(未完成)	—		○		○			
	道路・誉田町162号線(未完成)	—		—		—			
	道路・誉田町217号線(完成)	—		○		○			
	道路・千葉大網線(南口駅前広場)(完成)	○		○		◎			
	公園・(仮称)誉田駅北口交通広場公園(完成)	—		◎		—			
	公園・(仮称)誉田2丁目公園(完成)	—		◎		—			
高質空間形成施設・北口交通広場内(一部供用)	—	○	—						
高次都市施設・南北自由通路(完成)	◎	○	◎						
提案事業	地域創造支援事業・JR誉田駅橋上化事業(完成)	◎	○	◎	—				
	地域創造支援事業・誉田東小学校脇進入路拡幅事業(未完成)	—	—	○	—				
	まちづくり活動推進事業・まちづくり協議会運営	○	○	○	○				
	まちづくり活動推進事業・事業効果検討	○	○	○	○				
	まちづくり活動推進事業・誉田町162号線一方通行等シミュレーション(未完成)	—	—	—	—				
関連事業	街路事業・都市計画道路誉田駅前線	—	—	—	—				

※指標改善への貢献度

- ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- :事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- :事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	<p>駅北側地域内の速達性を高め、さらに南北連携を図っていく上で、道路事業が計画期間内に終了していない区間もあることから、引き続き事業を推進していきたい。</p>	<p>幹線道路を整備することにより、公園へのアクセスの良さ及び安全性を向上したい。</p>	<p>道路事業を推進することで、さらに誉田駅の利便性を向上したい。</p>	<p>誉田駅北口線及び誉田町215号線の整備を推進し、安全で快適な道路をつくり、より良好なまちづくりに寄与したい。</p>
-------	---	---	---------------------------------------	---



添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標2			指標3											
指標名		駅からの徒歩5分圏域			幹線道路の安全すれ違い率			抜け道利用車両の排除											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類						
基幹事業	道路・誉田町215号線(一部供用)	△	北口駅前広場への路線バスの乗り入れのため、誉田町215号線の整備を優先させたことから、誉田駅北口線の大部分が未整備となり、駅から徒歩5分圏域を拡大することが出来なかった。	IV	△	駅前交通広場及び地域西側の道路事業は完了し一部暫定歩道整備をしたものの、未整備箇所の遅れにより、地域全体としての道路網を整備するまでに至らなかったことが未達成の直接の要因である。	IV	△	誉田町215号線の一部供用開始に伴い、地区内の交通環境が向上したため、抜け道利用車両の大幅な減少が見られた。数値指標の達成はされなかったが、課題は大きく改善したと考えられる。	IV									
	道路・誉田駅北口線(一部供用)	△																	
	道路・北口交通広場(完成)	△																	
	道路・北口自転車駐車場(完成)	—																	
	道路・誉田町801号線(完成)	△																	
	道路・誉田町104号線(未完成)	△																	
	道路・誉田町162号線(未完成)	—																	
	道路・誉田町217号線(完成)	△																	
	道路・千葉大網線(南口駅前広場)(完成)	△																	
	公園・(仮称)誉田駅北口交通広場公園(完成)	—																	
	公園・(仮称)誉田2丁目公園(完成)	—																	
	高質空間形成施設・北口交通広場内(一部供用)	—																	
	高次都市施設・南北自由通路(完成)	△																	
提案事業	地域創造支援事業・JR誉田駅橋上化事業(完成)	△			—			—											
	地域創造支援事業・誉田東小学校脇進入路拡幅事業(未完成)	—			—			—											
	まちづくり活動推進事業・まちづくり協議会運営	△			△			△											
	まちづくり活動推進事業・事業効果検討	△			△			△											
	まちづくり活動推進事業・誉田町162号線一方通行等シミュレーション(未完成)	—			×			—											
関連事業	街路事業・都市計画道路誉田駅前線	—			×			—											

※目標未達成への影響度  
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	指標1	指標2	指標3
	・地元町内会と連携を強化し、道路事業の早期実現をする。	・地元町内会と連携を強化し、道路事業の早期実現をする。 ・用地取得済み箇所は、歩車道の分離を図るため、出来るだけ暫定歩道を整備する。	・誉田駅北口線及び誉田町215号線の整備を推進することでさらに、抜け道車両の排除効果が発現する。

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(誉田駅周辺地区事後評価検討チーム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定街路課 主査、主任技師、主任技師</li> <li>・道路計画課 主任技師 技師</li> <li>・公園建設課 主任技師 主任技師</li> <li>・まちづくり推進課 主任技師 主任主事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回:8月14日</li> <li>・第2回:8月28日</li> </ul>	特定街路課 誉田駅前整備室 (誉田駅周辺地区代表課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
交通結節機能及び南北地域間の連絡強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誉田駅橋上化事業、南北自由通路、北口交通広場、北口自転車駐車場、誉田町215号線及び誉田駅北口線の一部完了により、誉田駅における交通結節機能が強化し、鉄道による地域の分断が解消され、地域南北間の往来が円滑となった。また北口駅前広場に一部のバス路線が乗り入れるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誉田町215号線及び誉田駅北口線の全線整備完了には至っておらず、駅北側における駅への速達性を高めていくため、道路事業の推進を図っていく必要がある。路線バスは、予定されている北口駅前広場への乗り入れが完了しておらず、一部乗り入れにより軽減は図られたものの南口駅前広場の混雑が続いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR誉田駅橋上化事業、南北自由通路の整備、道路事業、公園事業の推進により、まちとしての魅力が向上したことから、駅を中心とした賑わいと活気のあるまちづくり、環境に配慮した居住環境の向上を図っていく必要がある。また、交通結節点機能及び南北間の連携強化を図るために、南口駅前広場及び(都)誉田駅前線の整備を早急に進める必要がある。整備内容についても、南北の地域特性を活かすような事業展開を進める。</li> </ul>
道路交通混雑の緩和と住宅地内通過交通の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誉田町215号線西側の事業完了に伴い、交通環境が向上したことにより、狭隘な生活道路への通過交通量が減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誉田町215号線西側が供用開始されたものの、誉田町162号線が一方通行化できないため、十文字踏切付近の交通渋滞が解消できない。幹線道路の一部供用及び暫定歩道を設置したことにより、通学時の児童の安全性が向上したものの、誉田駅北口線が未整備であることから、十部であるとは言えない。</li> </ul>	
バリアフリーの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北口交通広場、誉田町215号線西側及び誉田駅北口線の一部事業完了により、バリアフリーに配慮した歩道が設置されたことから、安心して歩ける空間が確保された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誉田町215号線及び誉田駅北口線の全線整備完了には至っていないことから、駅北側におけるバリアフリーの推進を引き続き行っていく必要がある。</li> </ul>	
防災性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北口交通広場、誉田町215号線西側及び誉田駅北口線の一部事業完了により、道路がもつ避難路としての役割、延焼遮断帯としての役割を果たすこととなり、駅北側の防災性が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誉田町215号線及び誉田駅北口線の全線整備完了には至っていないことから、駅北側における防災性の向上を引き続き図っていく必要がある。</li> </ul>	
自然環境との調和による快適な居住環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北口交通広場公園、誉田二丁目公園が整備されたことにより、新たな憩い空間が確保され、駅北側地域の居住環境の向上が図られた。</li> <li>・JR誉田駅橋上化事業、南北自由通路の整備により駅南側の住民が駅北側に行きやすくなったことから、駅南側の住民にとっても身近な憩い空間が確保された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅北側においては、誉田さくら公園、谷津や樹林地など既存の緑の空間がありながら、十分活用されていないことから、道路事業とあわせて緑のネットワークの形成を図っていく必要がある。</li> </ul>	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	南北間の交流の強化	・JR菅田駅橋上化事業、南北自由通路、北口交通広場、道路事業の一部の完了により、距離的な南北間の連携は強化されたので、今後は施設利用等による地域交流を活性化させる。	・自治会や商店街等によるイベントの開催 等

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	地区内の交通環境の向上	・本事業で位置づけられている道路事業の一部が交付期間内に終了していないことから、引続き道路事業の推進を図っていく必要がある。 ・北口駅前広場に計画の路線バスを乗り入れさせ、南口駅前広場の混雑の軽減を図る。 ・今後、自転車の需要が増えると思われるため、自転車利用者にも配慮する必要がある。 ・地区の傍に小学校があるため、通学路の安全性の向上を図る。	・道路事業(菅田町215号線、菅田駅北口線、菅田町162号線) ・地域創造支援事業(菅田東小学校協進入路拡幅) 等
	住民参加のまちづくり	・新たに整備された公園を有効活用して地域のコミュニティ形成を向上させるため、住民活動の促進による住民参加のまちづくりの実施を図る。	・菅田駅周辺まちづくり協議会運営 等
	良好な居住環境の誘導	新たに造られた憩い空間と既存の緑の空間を有効活用し、良好な居住環境を形成する。	・道路事業(菅田町215号線、菅田駅北口線、菅田町162号線) ・菅田駅周辺まちづくり協議会運営 等

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし



添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	駅からの徒歩5分圏域	ha	4.5	H16	19.7	H21	確定 ●	17.8	△	あり	→		
							見込み			なし ●			
指標2	幹線道路の安全すれ違い率	%	14.1	H16	54.6	H21	確定 ●	43.9	△	あり	→		歩道と車道の分離整備が、現段階でも安全にすれ違える水準であり、確定値として差し支えない。従って、フォローアップは不要である。
							見込み			なし ●			
指標3	抜け道利用車両の排除	台/時	158	H12	0	H21	確定 ●	8	△	あり	→		
							見込み			なし ●			
指標4	南北連携効果時間	分	11	H16	2	H21	確定 ●	2	○	あり	→		
							見込み			なし			
指標5	身近な憩い空間の確保	人	880	H16	1,180	H21	確定 ●	1,180	○	あり	→	平成22年6月頃	誉田2丁目公園が供用した時点の月末日の地区の住民基本台帳人口による算出値を確定値とする。
							見込み ●			なし			
その他の数値指標1	誉田駅への行きやすさ及び南口・北口の往来のしやすさ	%	—	H	/		確定 ●	58.5			→		参考(最終集計後の値69.9%)
その他の数値指標2	幹線道路の利用しやすさ及び安全性	%	—	H	/		確定 ●	61.5			→		参考(最終集計後の値75.7%)
							見込み						
その他の数値指標3				H	/		確定				→		
							見込み						

### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・モニタリングを実施したことにより、交付期間途中に供用した事業の効果を確認することができた。	・毎年データが算出できる指標を選定すると、モニタリングが容易となるため、指標を設定する際には計測のことも考慮して検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	モニタリングや事後評価等、交付期間中に数値を求める機会が多いため、計測値を求めるために費用が安価で、簡便に計測できる指標を検討すべきであった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		指標を設定する際には、1つの事業で複数の指標が影響するような指標は望ましくない。
	うまくいかなかった点	1つの事業が進まないと複数の指標が達成できなくなった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・住民と対話を重ねながら事業を推進したため、事業全体の質が向上した。	・住民参加はまちづくり事業を円滑にする上で有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	PDCAを活用することにより、事業の問題点を整理することが出来た。	PDCAによる事業の進め方を活用し、事業を進めることは、有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後のまちづくり交付金の活用予定  
本市においては、交通環境の改善を行う次期計画地区として、当地区のほかに新港横戸町線沿道地区を予定している。  
当地区の経験を次期都市再生整備計画に活かしていく。

・今後事後評価を予定する地区  
本市においては、平成23年度に千葉駅西口周辺地区において事後評価を実施予定。  
当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成21年10月7日 ～10月21日	平成21年10月7日～10月21日	担当課への持参、郵送、FAX、電子メール	まちづくり推進課 (まちづくり交付金主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表し、担当課窓口で閲覧できる旨を掲載	平成21年10月1日 発行 市政だより10月1日号	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	担当課窓口での閲覧	平成21年10月7日 ～10月21日	平成21年10月7日～10月21日		

住民の意見	問い合わせ等なし
-------	----------

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

### 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	岡部明子 千葉大学工学部准教授(都市政策) 委員長	平成21年11月13日	まちづくり推進課 (まちづくり交付金主管課)	千葉市まちづくり交付金 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	栗田和夫 NPO法人はさま・まちづくりの会専務理事/事務局長(市民参加とまちづくり、土地区画整理事業の経営) 亀山典子 (株)日本総合研究所主任研究員(行政評価)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	妥当である。
	成果の評価	妥当である。
	実施過程の評価	妥当である。
	効果発現要因の整理	妥当である。
	事後評価原案の公表の妥当性	妥当である。
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当である。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	南北の地域特性を活かす。 この事業で整備した施設の利用実態に即して、南北間を往来することで利便性の高まる仕掛けをしていく。
	フォローアップ	南北自由通路及び公園の利用状況に重点を置いたフォローアップをする。
	その他	今後、環境的観点から自転車利用の需要が見込まれるので、自転車利用者に配慮したまちづくりを引き続き行う。当該地区の傍に小学校があるので、通学路の安全性も検討していく
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	概ね妥当である。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。



# 都市再生整備計画(第3回変更)

ほんだえきしゅうへんちく  
誉田駅周辺地区

ちば ちば  
千葉県 千葉市

平成20年11月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	千葉市	地区名	誉田駅周辺地区	面積	29.6 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

### 目標

大目標：誉田駅の橋上化・南北自由通路整備を核とした交通結節点の強化及び地域の生活環境や利便性向上

目標1：交通結節機能及び南北地域間の連絡強化

目標2：地区内の円滑な交通処理と安全な居住環境の確保

目標3：花と緑を楽しめる憩い空間の確保

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

誉田駅周辺地区は、駅南側の主要地方道千葉大網線と誉田駅を中心に栄えてきた地域であり、千葉市緑区の地域拠点に位置付けられているが、無秩序に市街地が形成されてきたスプロール住宅地であり、狭隘な生活道路が多く、根幹的な道路整備が遅れている。さらに、JR外房線誉田駅は、市内JR18駅の中で唯一の地平駅であり、改札口が南側しかなく、駅前広場も南口のみのため、北側市街地からの鉄道利用は迂回を強いられ利便性に劣り、南北分断が地域活性化の妨げとなっている。また、バス等の交通結節機能が面積の狭い南口駅前広場に集中しているため、南口駅前広場内の車動線の輻輳、歩行者通行の安全性に問題がある。さらに、駅周辺に幹線道路が集中しているため、十文字踏切等での交通混雑が著しく、この混雑を避けるため狭隘な生活道路へ通過交通が多く流入することによる居住環境上の問題や狭隘な生活道路による防災上の問題もある。また、駅周辺の幹線道路に歩道がないことから、小学校への児童の通学等、歩行者・自転車通行の安全性が損なわれている。

交通結節機能と道路網の改善により、まちづくりを推進するため、千葉市では、本地区を「千葉市交通バリアフリー基本構想」の重点整備地区に位置づけ、また、平成13年度からの「千葉市新5か年計画」において、誉田駅の橋上化、南北自由通路及び地区内の幹線道路の整備を位置付けている。

#### 課題

##### ① 交通結節機能及び南北地域間の連絡強化

鉄道により南北が分断されており、地域の活性化の妨げとなっている。また、交通結節機能の南北分担がなされていないため、既存の南口駅前広場に交通が集中していることから、交通渋滞やバス利便性の低下等が生じている。

##### ② 道路交通混雑の緩和と住宅地内通過交通の削減

市道誉田町215号線や誉田駅北口線等の幹線道路が整備されていないため、十文字踏切付近の交通渋滞を招いており、さらに、狭隘な生活道路へ通過交通が流入している。

##### ③ バリアフリーの推進

「千葉市交通バリアフリー基本構想」に基づき、特定経路を含め、重点整備地区内の主要道路における歩道整備を推進する必要がある。（歩行面の平坦性確保・透水性舗装・電線類の地中化）

##### ④ 防災性の向上

道路が狭く、防災機能が劣っている。

##### ⑤ 自然環境との調和による快適な居住環境の向上

誉田さくら公園、北側の谷津や樹林地に至る既存の緑の空間の有効活用がなされていないため、快適な居住環境が形成されていない。

#### 将来ビジョン(中長期)

自然と調和したまちづくりをコンセプトに、北口交通広場(道街)、誉田駅北口線(道街)、誉田町215号線(道地)、自由通路(高次)等の整備を行い、交通結節点の強化を図る。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
駅からの徒歩5分圏域	( ha )	JR誉田駅から徒歩5分圏域	誉田駅北側からの駅アクセスを高め、利便性の高いまちづくりを進める。	4.5	19.7
幹線道路の安全すれ違い率	( % )	歩行者と自動車が安心してすれ違える歩道が整備された道路延長の割合	道路が狭隘で、通過交通も多いことに対して、安心して歩ける歩行空間を確保し、居住環境の向上を図る。	14.1	54.6
抜け道利用車両の排除	(台/時)	地区内の朝通勤時の狭あい道路通過車両台数	地区内の主要な生活道路に侵入していた通過交通を削減し、安全な居住環境の向上を図る。	158	0
南北連携効果時間	( 分 )	自由通路を利用して、南北移動する時間の短縮	鉄道による地域の分断の解消を図り、スムーズに移動できることにより、南北間の地域交流を高め、賑わいのあるまちづくりを進める。	11	2
身近な憩い空間の確保	( 人 )	計画区域内における街区公園の誘致圏人口	花と緑を楽しめる憩い空間を整備し、快適な居住環境を確保したまちづくりを進める。	880	1,180

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・交通結節機能及び南北地域間の連絡強化に関連して、            誉田駅の橋上化と南北自由通路の整備により南北地域間の交流を図るとともに、北口交通広場・駅へのアクセス道路・自転車駐車場の整備により、駅北口の交通結節機能を確保する。</p>	<p>JR誉田駅橋上化事業(提案事業)、高次都市施設(基幹事業/南北自由通路)、道路(地方道)(基幹事業/誉田町215号線、誉田町801号線、南口駅前広場)、道路(街路)(基幹事業/誉田駅北口線、北口交通広場、北口自転車駐車場)</p>
<p>・地区内の円滑な交通処理と安全な居住環境の確保に関連して、            市道誉田町215号線の整備により、十文字踏切付近の交通渋滞を緩和し、誉田駅北口線の整備により、狭隘な生活道路への通過交通を削減する。            また、「千葉市交通バリアフリー基本構想」に基づき、特定経路を含め、重点整備地区内の主要道路における歩道整備を推進する。(歩行面の平坦性確保・透水性舗装・電線類の地中化)</p>	<p>道路(地方道)(基幹事業/誉田町215号線)、道路(街路)(基幹事業/誉田駅北口線)</p>
<p>・花と緑を楽しめる憩い空間の確保に関連して、            JR誉田駅橋上駅舎・南北自由通路の整備による駅への来訪・南北移動の増加に伴い、待合い空間や賑わい空間を重視したオープンスペース(公園)を整備する。            また、誉田町215号線の南側のエリア内は、子供の遊び場となるオープンスペースが少ないことから、子供や高齢者等が歩いていける身近な公園を整備する。</p>	<p>公園事業(基幹事業/(仮称)誉田駅北口交通広場公園、(仮称)誉田2丁目公園)</p>
<p><b>その他</b>            上記の目標を達成するために、計画区域及びその周辺地区の地元住民と交通事業者で構成される協議会(傍聴可能)により、計画案に関する地元住民との意見交換・意見収集、「まちづくりニュース」の発行による計画概要・事業の進捗等の地元への情報提供を行いながら、地元住民の意見を反映させた事業展開を図っていく予定である。</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	6,710	交付限度額	2,684	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	
細項目	開始年度					終了年度	開始年度	終了年度	うち官負担分		うち民負担分			
基幹事業														
道路	菅田町215号線	千葉市	直	L=685m	H15	H21	H17	H21	2,970	2,577	2,577		2,577	
	菅田駅北口線	千葉市	直	L=525m	H15	H21	H17	H21	2,273	1,769	1,769		1,769	
	北口交通広場	千葉市	直	A=4,080㎡	H15	H18	H17	H18	1,248	262	262		262	
	北口自転車駐車場	千葉市	直	A=680㎡	H16	H17	H17	H17	137	66	66		66	
	菅田町801号線	千葉市	直	L=37m	H16	H18	H17	H18	12	4	4		4	
	菅田町104号線	千葉市	直	L=110m	H17	H21	H17	H21	31	31	31		31	
	菅田町162号線	千葉市	直	L=150m	H17	H21	H17	H21	21	21	21		21	
	菅田町217号線	千葉市	直	L=91m	H18	H18	H18	H18	43	43	43		43	
	千葉大綱線(南口駅前広場)	千葉市	直	A=1,100㎡	H17	H17	H17	H17	60	60	60		60	
公園	(仮称)菅田駅北口交通広場公園	千葉市	直	A=1,000㎡	H16	H18	H18	H18	111	49	49		49	
	(仮称)菅田2丁目公園	千葉市	直	A=850㎡	H18	H21	H18	H21	97	97	97		97	
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム	—													
地域生活基盤施設	—													
高質空間形成施設	北口交通広場内	千葉市	直	—	H16	H21	H18	H21	44	37	37		37	
高次都市施設	南北自由通路	千葉市	直	—	H15	H18	H17	H18	773	636	636		636	
既存建造物活用事業	—													
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計									7,820	5,652	5,652	0	5,652	
提案事業														
地域創造支援事業	JR菅田駅橋上化事業	JR菅田駅	千葉市	直	A=810㎡	H16	H18	H17	H18	1,182	1,052	1,014	38	1,014
	進入路整備	菅田東小学校脇進入路拡幅	千葉市	直	L=25m	H19	H21	H19	H21	8	8	8		8
事業活用調査	—													
まちづくり活動推進事業	まちづくり協議会運営	JR菅田駅周辺	千葉市	直	—	H15	H21	H17	H21	50	32	32		32
	事業効果検討	JR菅田駅周辺	千葉市	直	—	H21	H21	H21	H21	2	2	2		2
	菅田町162号線一方通行等シミュレーション	菅田町162号線	千葉市	直	—	H20	H20	H20	H20	2	2	2		2
合計									1,244	1,096	1,058	38	1,058	
												合計(A+B)	6,710	



